

# エゴグラムからみた若年層における交通事故経験者の行動パターンに関する研究

大同工業大学 学生会員 星野貴之 大同工業大学 正会員 嶋田喜昭  
 (財)豊田都市交通研究所 フェロー会員 伊豆原浩二 大同工業大学 正会員 舟渡悦夫

## 1. はじめに

平成10年版交通事故統計年報によると、交通事故負傷者数ならびに死者数は年齢層別で20～24歳の若者がもっとも多く、若者ドライバーの交通安全対策が急務である。本研究では、交流分析を用いた交通安全教育の有用性を検討することを目標とし、若者ドライバーの交通事故と運転技術の自己評価ならびに罰則回数との関連、そして交流分析におけるエゴグラム（心理テスト）を利用した交通事故経験者の行動パターンについて分析を行った。

## 2. 調査方法

### 1) 調査・回収方法

豊田市内の19・20才の若者(2002年に新成人となる)を対象にアンケートを行なった(2001年8月中旬～9月中旬に実施)。配布、回収の方法は郵送であり、総配布数2000票に対し744票を回収し、回収率は37%であった。本研究では、自動車をほぼ毎日運転する交通事故経験者103のデータを用いて分析を行った。なお、交通事故1回のみを経験者が66名であり、2回以上の経験者が37名であった。

### 2) 交流分析とエゴグラムの概要

交流分析では、エゴグラムと呼ばれる心理テストを用いて5つの自我状態(心の状態)を計量的に算出し、人間関係をスムーズにするための援助手段として、手軽で優れた方法であり医療や教育の現場においてよく利用されている。本調査では、自我状態別に10の質問、計50項目の行動パターンから構成されるSGE(自己成長エゴグラム Self Grow-up Egogram)を採用した(表1)。なお、CP(Critical Parent)は、父親的で批判的な親の自我状態であり、NP(Nurturing Parent)は母親的で擁護的な親の自我状態である。Aは成人としての客観的な心で、現実の認識、物事の判断を行なう自我状態であり、FC(Free Child)は、子供心そのもので自由奔放な子供の自我状態、AC(Adapted Child)は親の顔色を見るような順応した子供の自我状態である。

## 3. 分析結果

### 1) 交通事故回数と運転技術の自己評価

交通事故(1回・2回以上)の経験者別の運転技術の自己評価(他人との比較)の割合を図1に示す。図1をみると、2回以上の経験者は1回のみを経験者と比較して「他人より上手」「他人より下手」と自己評価した割合が高いことがうかがえる。

### 2) 交通事故回数と罰則回数の関係

図2は交通事故経験者別の罰則回数の割合を示したものである。図2をみると、交通事故回数に関係なく罰則回数が0回の割合はほぼ同じであるが、交通事故が2回以上の経験者は2回以上の罰則を受けた経験者の割合が高くなっている。

表1 SGE エゴグラム質問項目

以下の質問に、はい(○)、どちらでもない(△)、いいえ(×)のようにお答え下さい。ただし、できるだけ×か△で答えるようにして下さい。

自我状態	質問項目
CP	CP1 間違ったことに対して間違いだと言います
	CP2 時間を守らないことは嫌です
	CP3 規則やルールを守ります
	CP4 人や自分をとがめます
	CP5 べきである、べきではないと思います
	CP6 決めたことは最後まで守らないと気がすみません
	CP7 借ったお金を期限までに返さないと気になります
	CP8 約束を破ることはありません
	CP9 不正なことに妥協しません
	CP10 無責任な人をみると許せません
NP	NP1 思いやりがあります
	NP2 人をほめるのが上手です
	NP3 人の話をよく聞いてあげます
	NP4 人の気持ちを考えます
	NP5 ちょっとした贈り物でもしたいほうです
	NP6 人の失敗には寛大です
	NP7 世話好きです
	NP8 自分から暖かく挨拶します
	NP9 困っている人をみると何とかしてあげます
	NP10 子供や目下の人を可愛がります
A	A1 何でも、何が中心問題か考え直します
	A2 物事を分析して、事実に基づいて分析します
	A3 なぜそうなのか理由を検討します
	A4 情緒的というより理論的です
	A5 新聞の社会面などに関心があります
	A6 結末を予測して、準備をします
	A7 物事を冷静に判断します
	A8 わからない時はわかるまで追求します
	A9 仕事や生活の予定を記録します
	A10 他人の人ならどうするだろうかと客観視します
FC	FC1 してみたいとがいろいろあります
	FC2 気分転換が上手です
	FC3 よく笑います
	FC4 好奇心が強いほうです
	FC5 物事を明るく考えます
	FC6 茶目っ気があります
	FC7 新しいことが好きです
	FC8 将来の夢や楽しいことを空想するのが好きです
	FC9 趣味が豊かです
	FC10 すごい、わぁー、へー等の感嘆詞を使います
AC	AC1 人の気持ちが気になって合わせてしまいます
	AC2 人前に出るより、後ろに引っ込んでしまいます
	AC3 よく後悔します
	AC4 相手の顔色をうかがいます
	AC5 不愉快なことがあっても口に出さず、押さえてしまいます
	AC6 人によく思われようと振る舞います
	AC7 協調性があります
	AC8 遠慮がちです
	AC9 周囲の人の意見にふりまわされます
	AC10 自分が悪くないのに、すぐ謝ります

キーワード：交通事故 交流分析 エゴグラム 要因分析

連絡先：〒457-8532 名古屋市南区白水町40 TEL 052-612-5571 Fax 052-612-5953

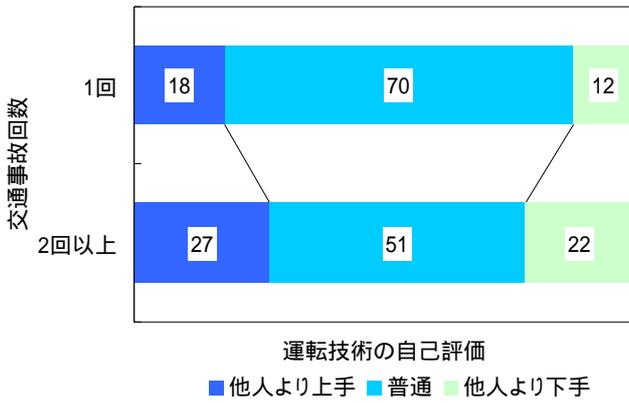


図1 交通事故回数別運転技術の自己評価

注) 表中の数字は割合を示す。

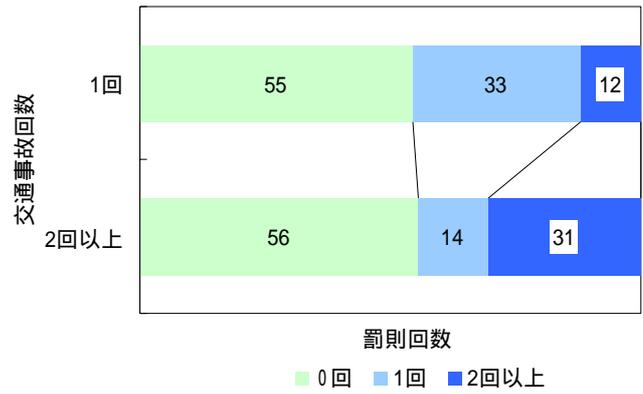


図2 交通事故回数別罰則回数の割合

注) 表中の数字は割合を示す。

3) エゴグラムと交通事故回数の関連性

交通事故回数と表1に示す質問項目との関連性をみるために2独立性の検定(危険率5%)を行なった結果を表2に示す。5つの自我状態の中でもっともNPの項目と交通事故回数との関連性が多く有意にみられる。NPは協調性やコミュニケーションに関する項目が構成されており、協調性や他人に対する思いやりが交通事故回数に関連していると考えられる。

表2 SGE エゴグラム質問項目と事故回数の関連性

CP	NP	A	FC	AC
CP1	NP1	A1	FC1	AC1
CP2	NP2	A2	FC2	AC2
CP3	NP3	A3	FC3	AC3
CP4	NP4	A4	FC4	AC4
CP5	NP5	A5	FC5	AC5
CP6	NP6	A6	FC6	AC6
CP7	NP7	A7	FC7	AC7
CP8	NP8	A8	FC8	AC8
CP9	NP9	A9	FC9	AC9
CP10	NP10	A10	FC10	AC10

\*\* : p < 0.01 \* : p < 0.05

4) 交通事故回数別経験者の行動パターン

交通事故の回数に影響すると思われる個人要因を探るために事故回数を外的基準とした数量化 類モデルを用いて分析した。説明変数としては、表2に示す2独立性の検定において有意差があり、カテゴリのデータ数が5より大きい質問項目を選定した。分析結果は表3に示すとおりであり、相関比は0.38、判別の中率は74.8%であった。レンジ、偏相関係数より、FC-7・NP-4が事故回数(1回のみ経験者と2回以上の経験者の判別)に強く影響を及ぼしていることがわかる。また、カテゴリ・ウェイトより NP-4 : x・FC-7 : xの順に事故回数に大きく寄与している。すなわち、2回以上経験している事故常習者は人の気持ちをまったく考えず、新しいことが嫌いで約束を破る行動パターンであると考えられる。

表3 交通事故回数別経験者の行動パターン

項目NO	内容	カテゴリ	データ数	カテゴリ・スコア	レンジ	偏相関係数
CP-8	約束を破りません	x	32	-0.292	0.436	0.134
			28	0.113		
			43	0.144		
NP-4	人の気持ちを考えます	x	10	-1.180	1.373	0.292
			21	-0.097		
			72	0.192		
NP-5	ちょっとした贈り物でもしたいほうです	x	28	0.059	0.239	0.072
			19	0.157		
			56	-0.083		
NP-6	人の失敗には寛大です	x	23	-0.391	0.527	0.148
			34	0.136		
			46	0.095		
A-5	新聞の社会面などには関心があります	x	53	-0.250	0.636	0.210
			14	-0.045		
			36	0.386		
A-9	仕事や生活の予定を記録します	x	58	-0.105	0.258	0.088
			17	0.153		
			28	0.125		
FC-4	好奇心が強いほうです	x	8	0.758	0.948	0.234
			18	0.476		
			77	-0.190		
FC-7	新しいことが好きです	x	8	-0.915	1.659	0.325
			18	0.743		
			77	0.076		
AC-9	周囲の人の意見に振り回されます	x	16	-0.231	0.756	0.249
			12	-0.352		
			75	0.404		
事故回数	1回		66	0.459	相関比 = 0.380	
	2回以上		37	-0.820		

注) レンジ・偏相関係数の は順位を示す。全体の判別の中率 : 74.8%

4. まとめ

以上の結果より、交通事故回数とエゴグラムの質問項目からみた行動パターンとの関連性を示すことができ、2回以上の事故常習者は協調性がなく無責任な人間が多い傾向であることが分かった。今後の課題として、運転特性とエゴグラムの関係について検討する必要がある。